

2014 年度認識人間 後期試験再現

1. 以下の問いに答えよ

「最近哲学は言語論的転回を行った。…（中略）…。三人の人たち、①、②、③の影響は際立っている。」

問 1 この文章は「言語論的転回」という言葉を作った人が書いたものである。その人物名を答えよ

問 2 ①～③に入る人物名を答えよ

問 3. ①～③のうちの二人は「論理的原子論」の立場を採用していた。この論理的原子論とはどのような立場か説明せよ
(実際は問題文では中略となっておらず全文のっていましたが解答に差し支えはないので割愛しています)

2. 以下の問いに答えよ

言語論的転回に基づく流れに理想言語哲学派があった。その担い手となったのがオーストリアの研究グループ「①」でその中心人物には 1936 年大学で殺害された②などがいる

問 ①、②に当てはまる言葉を答えよ (②は人名)

3. 以下の問いに答えよ

言語論的転回に基づく流れには理想言語哲学のほかに「①哲学」というものもあった。それを代表する人物が『心の概念』を書いた②や『言語と行為』を書いた③である。②はたとえば大学を学舎や図書館などと並列して存在するというように考える間違いを④と呼んだ。そして心と体を分けて考えようとするデカルトの考えを「⑤の中の幽霊」と称した。

問 ①～⑤に当てはまる言葉を答えよ

4. 以下の問いに答えよ

サールは発話内行為を分類する際に「適合方向」というものに注目した。たとえば信念表明型は①から②への適合方向であるのに対し、命令などが含まれる行為指令型、約束などが含まれる③型は②から①への適合方向である。また、信念表明型は話し手の前提とされている心理状態は信念であるのに対し、命令などは④、約束などは⑤が前提とされている

問 ①～⑤に当てはまる言葉を答えよ

5. 以下の問いに答えよ

①は論文『意味と指示について』において固有名には意味があると説明した。これを受けてサールは「②主義」の立場から指示理論を唱えた。これに異を唱えたのが『名指しと必然性』を書いた③や確定記述の指示的使用と属性表示的使用を唱えた④であった。

問1 ①～④に当てはまる言葉を答えよ

問2 サールのクラスター説（群概念説）はどのようなものか説明せよ